





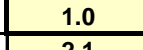








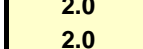
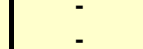

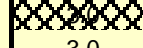








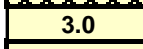
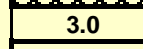
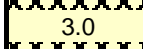




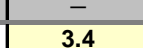
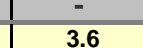
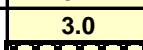
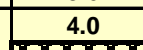


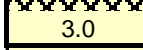
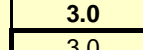







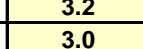














CASBEE-広島 (2010年ver.1)
(仮称)アルファスマート観音新町

 用途等で評価が不要となる項目については、自動的に網掛けが入ります
 欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE広島 2009年版
 ■ベース評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								2.9
Q1 室内環境			0.40					3.1
1 音環境		2.2	0.15	3.1	1.00			2.9
1.1 騒音		2.0	0.40	3.0	0.40			
1.1.1 暗騒音レベル		2.0	1.00	3.0	1.00			
			-		-			
1.2 遮音		3.0	0.40	3.8	0.40			
1.2.1 開口部遮音性能	開放廊下側サッシのみT-2サッシを採用。	3.0	1.00	4.0	0.30			
1.2.2 界壁遮音性能	スラブの厚みを180mm確保。		-	4.0	0.30			
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	Lr-45のフローリング材を使用		-	4.0	0.20			
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	3.0	0.20			
1.3 吸音		1.0	0.20	2.0	0.20			
2 温熱環境		2.1	0.35	3.0	1.00			2.8
2.1 室温制御		2.2	0.50	3.0	1.00			
2.1.1 室温設定		3.0	0.63	-	-			
			-		-			
2.1.3 外皮性能		1.0	0.38	3.0	1.00			
2.1.4 ゾーン別制御性			-		-			
			-		-			
			-		-			
			-		-			
2.2 湿度制御		2.0	0.20	-	-			
2.3 空調方式		2.0	0.30	-	-			
3 光・視環境		3.0	0.25	3.5	1.00			3.4
3.1 昼光利用		4.2	0.30	4.0	0.50			
3.1.1 昼光率	共用部の昼光率は5.4、住居部分の昼光率は3.4。	5.0	0.60	5.0	0.50			
3.1.2 方位別開口			-		0.30			
3.1.3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20			
3.2 グレア対策		2.0	0.30	3.0	0.50			
			-		-			
3.2.2 昼光制御		2.0	1.00	3.0	1.00			
3.3 照度		3.0	0.15	-	-			
3.3.1 照度		3.0	1.00	-	-			
			-		-			
3.4 照明制御		3.0	0.25	-	-			
4 空気質環境		3.6	0.25	3.6	1.00			3.6
4.1 発生源対策		4.0	0.60	4.0	0.63			
4.1.1 化学汚染物質	F☆☆☆☆建材を全面的に使用	4.0	1.00	4.0	1.00			
			-		-			
			-		-			
			-		-			
4.2 換気		3.0	0.40	3.0	0.38			
4.2.1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33			
4.2.2 自然換気性能			-	3.0	0.33			
4.2.3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33			
			-		-			
4.3 運用管理			-		-			
4.3.1 CO ₂ の監視			-		-			
4.3.2 喫煙の制御			-		-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			3.2
1 機能性		3.4	0.40	3.6	1.00			3.5
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.60	4.0	0.60			
1.1.1 広さ・収納性			-		-			
1.1.2 高度情報通信設備対応	光ケーブル対応の空配管を先行配管。		-	4.0	1.00			
1.1.3 バリアフリー計画		3.0	1.00		-			
1.2 心理性・快適性		4.0	0.40	3.0	0.40			
1.2.1 広さ感・景観			-	3.0	0.50			
1.2.2 リフレッシュスペース			-		-			
1.2.3 内装計画	高級感(コンセプト)を演出する建築材料の選定、一部LED照明を採用したエコ仕様	4.0	1.00	3.0	0.50			
1.3 維持管理			-		-			
1.3.1 維持管理に配慮した設計			-		-			
1.3.2 維持管理用機能の確保			-		-			
2 耐用性・信頼性		3.2	0.31		-			3.2
2.1 耐震・免震		3.0	0.48		-			
2.1.1 耐震性		3.0	0.80		-			
2.1.2 免震・制振性能		3.0	0.20		-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.6	0.33		-			
2.2.1 躯体材料の耐用年数	劣化等級対策等級(構造躯体)等級2相当	4.0	0.23		-			
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23		-			
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	共用部内装仕上げ材は耐用年数が高いものを採用	4.0	0.09		-			
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08		-			
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途上位3種の内、2種類以上にB以上を使用した。Eは不使用。	5.0	0.15		-			
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23		-			

2.4 信頼性			3.2	0.19		-	-
1	空調・換気設備		3.0	0.20		-	-
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20		-	-
3	電気設備		3.0	0.20		-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	-
5	通信・情報設備	光ケーブル対応が可能、MDFを地上部に設置	4.0	0.20		-	-
3 対応性・更新性			3.2	0.29	2.8	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり					2.6	0.50	
1	階高のゆとり				3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ				2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.2	1.00		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17		-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.17		-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.11		-	
4	通信配線の更新性	空配管内に配線・呼び線挿入することで、仕上材を傷めることなく通信配線の更新・修繕が出来るようにした	5.0	0.11		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22		-	
6	バックアップスペース		3.0	0.22		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30		-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.7
1 建物の熱負荷抑制			3.0	0.40		-	3.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20		-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50		-	
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50		-	
3 設備システムの高効率化		共用部の照明点灯方式にタイマー制御・センサー点灯を給湯器にエコキュートを採用	4.9	0.40		-	4.9
4 効率的運用						-	-
4.1	モニタリング					-	
4.2	運用管理体制					-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.9
1 水資源保護			3.4	0.15		-	3.4
1.1	節水	節湯型機器と節水型便器を設置	4.0	0.40		-	
1.2	雨水利用・雑排水再利用		3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00		-	
2	雑排水再利用システム導入の有無					-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.6	0.63		-	2.6
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	杭に使用	4.0	0.20		-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.24		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.22		-	3.3
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32		-	
3.2	フロン・ハロンの回避		3.5	0.68		-	
1	消火剤	ハロン消火剤を採用していない	4.0	0.50		-	
2	断熱材		3.0	0.50		-	
3	冷媒		-	-		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		エコキュートを採用(燃焼器具による大気汚染物質を発生させない)	4.6	0.33		-	4.6
2 地域環境への配慮			2.8	0.33		-	2.8
2.1	大気汚染防止	エコキュートを採用(燃焼器具による大気汚染物質を発生させない)	5.0	0.25		-	
2.2	温熱環境悪化の改善		2.0	0.50		-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		2.5	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		2.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			2.5	0.33		-	2.5
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40		-	
1	騒音		3.0	1.00		-	
2	振動		-	-		-	
3	悪臭		-	-		-	
3.2	風害、日照障害の抑制		1.6	0.40		-	
1	風害の抑制		1.0	0.70		-	
2	日照障害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3	光害の抑制		3.7	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	屋外広告物照明は採用しない	4.0	0.70		-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	